

# 看護技術のデモンストレーションを見学した学生が認知した 言葉のテキストマイニング分析

三井 弘子, 大津 廣子, 中井 三智子, 中村 美起, 林 暁子

鈴鹿医療科学大学 看護学部 看護学科

## 研究報告

看護技術のデモンストレーションを見学した学生が認知した  
言葉のテキストマイニング分析

三井 弘子, 大津 廣子, 中井 三智子, 中村 美起, 林 暁子

鈴鹿医療科学大学 看護学部 看護学科

キーワード： 看護技術, デモンストレーション, テキストマイニング

## 要 旨

本研究は、教員が実施する看護技術のデモンストレーションを見学した学習者が「動作がイメージできる言葉」「印象に残る言葉」「理解できない言葉」として認知した言葉を明らかにし、デモンストレーション時の効果的な指導言語について検討することを目的としている。調査では、東海三県において研究協力の得られた看護系大学の教員3名のデモンストレーション時の指導言語を録音し、デモンストレーションを見学した1年次生260名のうち、研究協力が得られた202名を対象に録音データを使用して自記式質問紙調査をおこない、テキストマイニングソフトを用いて分析した。「印象に残った言葉」の構成要素は出現件数の高い順に「ここ」(44)、「する」(37)、「ポイント」(33)、「患者」(32)などであり、学生への注意喚起や患者への配慮に関するものがみられる。「理解できない言葉」の構成要素は出現件数の高い順に「寝衣」(25)、「手」(18)、「さばく」(16)、「患者」(15)などであり、演習項目に特有なものがみられる。「動作がイメージできる言葉」の構成要素は出現件数の高い順に「患者」(90)、「する」(88)、「ように」(83)、「して」(68)、「下」(64)などであり、動作の方向を示す言葉や動作の様子を表現する擬態語などがみられる。以上の結果から、デモンストレーション時の指導言語について以下の示唆が得られた。①注視させたい動作に対して、学生の視点が向くように注意を促すことが必要である。②学生の生活体験における動作を想起させておく必要がある。③説明している行為の主体を明示する。④擬音語、擬態語は、比較的イメージの一致がみられる表現を用いる。

## 1. はじめに

看護技術教育では、援助の目的や方法等の知識を講義で学習し、教員のデモンストレーションの見学や視聴覚教材の視聴後に援助を体験して、技術を修得する方法を用いている。

視聴覚教材は、反復学習には効果的であるが、映像が平面的で説明内容の強弱のポイントが不明確にありがちであるのに対し、教員が実施するデモンストレーションは、学生が立体的に臨場感を感じながら看護ケアの実際を学ぶことができる。また、技術だけでなく、看護観や看護に対する姿勢をデモンストレーションで示すことが可能であり、看護技術を捉えるために重要な教育方法であるとしている<sup>1)</sup>。

人間は視覚から約8割の情報を得るといわれ、視覚から得る情報が聴覚から得られる情報より多い。学生がより理解しやすく、演習においてデモンストレーションの再現性を高めるために、視覚から得られた情報を補完し、より理解しやすくする指導言語を用いる必要がある。

限られた授業時間の中で、効果的に学習を進めるために、デモンストレーションのシナリオ作成や事前打合せなど方法に工夫が必要であるとしている<sup>2)</sup>。また、デモンストレーションの説明は、学生が目に見えるようメリハリをつける、タイミングや内容を吟味する必要があるとしている。デモンストレーション時に学習者に重要な点を気付かせるよう、声の大きさや抑揚を変化させ説明し、デモンストレーションに用いる言葉は、学習者が練習するときの体験と結びつけ易いものが望ましいとしている<sup>3)</sup>。

看護技術の修得において、演習時のデモンストレーションが重要であることは議論の余地はないと思われるが、デモンストレーションの具体的な指導言語に言及した研究は少ない。

そこで本研究では、デモンストレーションにおいて教員が用いる指導言語について調査し、より良いデモンストレーションの示唆とする。

## 2. 用語の定義

本研究における用語の定義は以下のとおりである。

デモンストレーションとは、看護技術演習において、教員が患者役、看護師役、解説者役を分担し、患者に対する説明と同意から後片付けまでの一連の看護援助を学生に演示し、説明することを意味する。

指導言語とは、デモンストレーション時に解説者が用いる言語的教示としての言葉を意味する。看護師役が解説役を兼任する場合は、患者への声かけ以外の、学生に向けた援助の根拠・方法などを説明する部分で用いられる言葉を意味する。

## 3. 研究目的

教員が実施する看護技術のデモンストレーションを見学した学習者が「動作がイメージできる言葉」「印象に残った言葉」「理解できない言葉」として認知した言葉を明らかにし、デモンストレーション時の効果的な指導言語について検討する。

## 4. 研究方法

### 1) 対象

東海三県において研究協力の得られた看護系大学の教員3名に対してデモンストレーション時の指導言語の録音を依頼した。また、同意が得られた教員が所属する大学の1年次生260名に研究協力を依頼した。

### 2) データ収集期間

平成27年10月～11月の期間に3大学においてデータ収集をした。

### 3) データ収集方法

教員のデモンストレーションに関するデータは、技術

演習時にデモンストレーションの解説をおこなう教員に IC レコーダーを装着し録音した。

学生への調査は、各大学の学生を教室に集合させ、当該学生が看護技術演習時に見学したデモンストレーションの録音データを聞かせ、①印象に残った言葉とその理由、②理解できない言葉、③動作がイメージできる言葉について自記式質問紙調査をおこなった。

#### 4) 分析方法

回収した自記式質問紙や IC レコーダーに録音したデータを CVS 形式によるデータファイルに変換し、テキストマイニングソフト、WordMiner<sup>®</sup> を用いて分析単位である構成要素に分解した。この中から、記号、句読点、助詞を取り除き、データを整理したのち、構成要素の出現件数、および使用状況を分析した。「理解できない言葉」においては、誤って記入する学生が多くみられたが、本研究においては、理解できない言葉が何であるかを明らかにすることが目的であるため、正しい表記が明確であるものは、データを修正した後、分析した。

#### 5) 倫理的配慮

本研究は研究者が所属する施設の臨床研究倫理審査委員会の承認を得て実施した。対象者には、書面と口頭で研究概要、拒否の自由、協力の有無は成績とは無関係であること、個人情報の保護について説明し同意を得た。

デモンストレーションの録音データは CVS 形式によるデータに変換した後、施錠可能な場所に保管し、コード化して個人が特定されないよう管理した。自記式質問紙調査は無記名で実施し、得られたデータはコード化し個人が特定されないように管理した。

### 5. 結果

#### 1) 対象者の概要

調査の参加に同意が得られた学生は大学別に、A 大

学 62 名、B 大学 92 名、C 大学 48 名の計 202 名であった。自記式質問紙調査は、配布数 202 に対して回収数 202 であった。調査対象となった演習は、排泄援助が 1 校、寝衣交換が 2 校であった。

#### 2) 印象に残った言葉と理由について

「印象に残った言葉とその理由」については、3 つまで回答を求めたところ、202 名から 520 件の回答が得られた。

「印象に残った言葉」の構成要素は 526 あり、出現件数 (表 1) は、高い順に「ここ」(44)、「する」(37)、「ポイント」(33)、「患者」(32) などがある (カッコ内は出現件数、以下同様)。上位 20 位までをみると、学生への注意喚起や患者への配慮に関する構成要素の出現件数が高い。

「する」を除いた看護師の具体的動作に関する構成要素の中で、最も出現件数の高い「支える」の使用状況や印象に残った理由と見てみると、「下から手を支える」など、出現した 24 件のうち、23 件が「下」という構成要素と一緒に回答されていた。この「下から手を支える」という言葉を印象に残った言葉として挙げた理由をみてみ

表 1 印象に残った言葉：構成要素の出現件数上位 20 位まで

順位	構成要素	出現件数	順位	構成要素	出現件数
1	ここ	44	1	寝衣	25
2	する	37	2	手	18
3	ポイント	33	3	さばく	16
4	患者	32	4	患者	15
5	手	31	5	です	12
6	です	28	6	下	11
7	下	29	7	吸盤	10
8	支える	24	8	いく	10
9	さん	23	9	さん	10
10	して	20	10	襟ぐり	10
11	ように	21	11	お小水	9
12	大事	21	12	さばいて	9
13	にこやか	20	13	ような	9
14	よく	15	14	タオルケット	9
15	寝衣	15	15	上	9
16	丁寧	15	16	整える	7
17	ください	12	17	ない	8
18	見て	12	18	手関節	8
19	安楽	13	19	肘関節	8
20	言わない	12	20	部分	8

表 2 理解できない言葉：構成要素の出現件数上位 20 位まで

ると、4件が「わかりやすいと思った」「イメージがつくから」等と回答したが、16件で「何回も言われたから」「重要な言葉として何度も聞いていたから印象に残った」と回答している。

同じく「する」を除いた看護師の具体的な動作に関する構成要素の中で、2番目に出現件数の高い「にこやか」については、回答された20件のうち16件が「にこやか」のみを記載し、4件で「援助をするときはにこやかに」「にこやかに援助する」と動作が行われるタイミングとあわせて回答されていた。「にこやかに」を印象に残った言葉として挙げた理由には、「看護師として常に意識しなければいけないから」「倫理的配慮が大切だと思うから」として看護師の行動として肯定的にとらえる学生がいる一方で、「全て良心的にとらえられる言葉の選択ではないと思う」「トイレのときにあまりにこやかにするのっておかしいと少し思った」といった回答が5件あった。

### 3) 理解できない言葉について

「理解できない言葉」については、制限を設けず回答を求めたところ、143名から314件の回答が得られた。

「理解できない言葉」の構成要素は456あり、出現件数(表2)は、高い順に「寝衣」(25)、「手」(18)、「さばく」(16)、「患者」(15)などがある。上位20位までをみると、「理解できない言葉」では演習項目に特有な構成要素の出現件数が高い。

「寝衣」が含まれる回答をみても、14件で「寝衣をさばく」と表現されている。残りの11件は、「寝衣」と単独で記載したものが2件、「寝衣を持ち上げる」「右肩の寝衣を下げる」など、動作とともに表現されているものが9件であった。

「手」が含まれる回答をみると、「吸盤のような手」が11件、「迎え手」6件、「手関節」8件あった。「迎え手」については、誤って記入する学生は見られなかったが、「手関節」および「肘関節」は、「主関節」「中関節」といった誤って記入する学生がみられた。

### 4) 動作がイメージできる言葉について

「動作をイメージできる言葉」については、制限を設けず回答を求めたところ、202名から1,117件の回答が得られた。

「動作がイメージできる言葉」の構成要素は1,067あり、出現件数(表3)は、高い順に「患者」(90)、「する」(88)、「ように」(83)、「して」(68)、「下」(64)などがある。上位20位までをみると、動作の方向を示す言葉や動作の様子を表現する擬態語などがみられる。

### 5) デモンストレーション時に使用している教員の言葉について

3大学全てのデモンストレーション時に使用している教員の言葉の構成要素は1072あり、出現件数(表4)は、高い順に「さん」(84)、「して」(82)、「患者」(77)、「そして」(75)などがある。接尾辞、対象者を示す名詞、助動詞、接続詞など、説明の際に用いられた共通する言葉が上位に挙がっている。

次頁の図は、各出現件数の構成要素数を示している。一般に、出現件数が1件の構成要素(アンケート調査全

表3 動作がイメージできる言葉：構成要素の出現件数上位20位まで

順位	構成要素	出現件数
1	患者	90
2	する	88
3	ように	83
4	して	68
5	下	64
6	手	64
7	さん	62
8	支える	47
9	上	42
10	寝衣	33
11	ワゴン	29
12	しっかり	28
13	位置	26
14	手指消毒	26
15	いく	25
16	カーテン	25
17	姿勢	25
18	合わせる	24
19	ない	22
20	腰	22

表4 デモンストレーション：構成要素の出現件数上位20位まで

順位	構成要素	出現件数
1	さん	84
2	して	82
3	患者	77
4	そして	75
5	です	74
6	ください	53
7	ように	50
8	い	48
9	いう	46
10	いきます	44
11	します	36
12	寝衣	32
13	なります	31
14	います	30
15	この	28
16	する	27
17	下	26
18	看護師	23
19	上	22
20	いただきます	21

体において1回しか用いられなかった構成要素)が最も多く、出現件数が高くなるに従い減少する傾向が見られるが、デモンストレーション時に使用している教員の言葉にも同様の傾向が見られる。出現件数が1件の構成要素には、動詞や形容詞などの活用形がみられた。

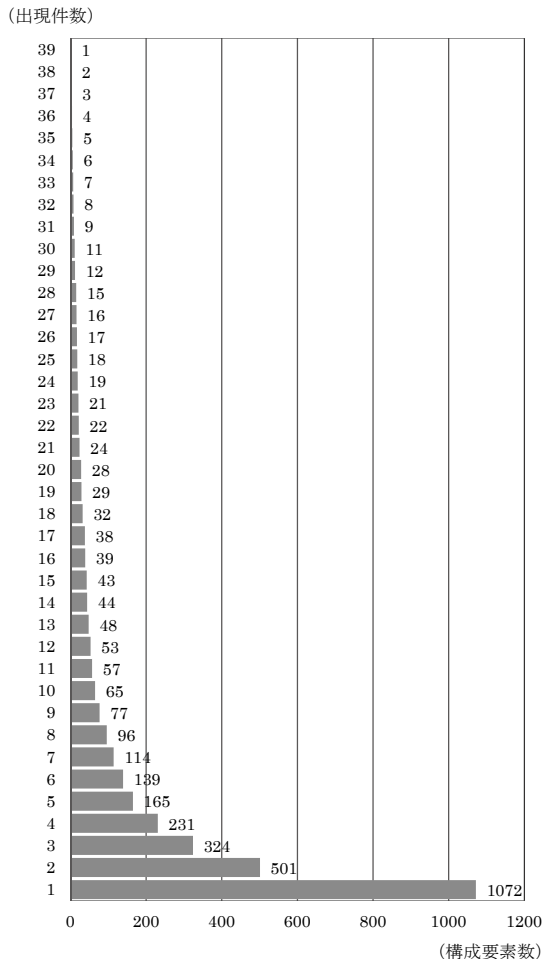


図 出現件数毎の構成要素数

## 6. 考察

教員のデモンストレーションを見学した学習者が認知した言葉と、それらとデモンストレーション時に使用している教員の言葉との比較の2つの視点から、デモンストレーションに用いる指導言語について検討する。

### 1) 学習者が認知したことば

#### (1) 注視行動を促す言葉を用いる

印象に残った言葉の出現件数については、演習項目が異なり回答者数が異なるため、演習項目について出現件数の高低について比較することはできないが、演習に特有な構成要素を除くと、「ここ」(44)、「する」(37)、「ポイント」(33)など学生への注意喚起や患者への配慮に関連した構成要素の出現件数が高い。

印象に残った理由を見ると、その言葉自体の重要性を理解している学生もあるが、教員が繰り返し用いた言葉であるため重要だと感じて、印象に残った学生もある。

注視行動について、専門家と未経験者を比べると、専門家は評価の対象となる重要部分を確実に注視している<sup>4)</sup>。学生にとってはじめてみる援助行動は、どの部分が重要か判断できず、見過ごしてしまう可能性がある。注視させたい動作に対して、「ここポイントです」など、まずは重要であることを伝える。次に「看護師の手の動きを見てください」など、学生の視点が理解させたい動作に向くように注意を促すことが必要である。

#### (2) 行為の主体を明らかにする

動作をイメージできる言葉に、「下」など方向を示す構成要素が上がっていたが、少数ではあるが理解できない言葉にもこうした位置や方向を示す構成要素が散見される。

位置を示す言葉には、2つの視点がある。一つは話者が自分を中心として自分と自分以外の参照点との関係で対象の位置関係を決める視点と、もう一つは参照点となるものに固有するモノの向きを中心に対象の位置関係を決める視点である<sup>5)</sup>。このことから、位置や方向を示す言葉について理解できないと感じた学生は、どの視点から動作を表現しているのか理解できなかった可能性が考えられる。よって、説明している行為の主体が変わったときは、言葉で明示することが学生の理解を促すことにつながると考えられる。

## (3) 学習者の体験と結びついた言葉を用いる

「安全」「安楽」「自立」という言葉において、教員が解説時に同じ回数用いても、学生が受ける印象が異なっていた。特に、「安楽」は聞きなれない言葉と感じた学生が、「安全」「自立」と比べて多くある(表5)。また、「手関節」を「主関節」、「肘関節」を「中関節」と誤って記入する学生があった。

デモンストレーションを用いるねらいは、看護技術を修得させるために、重要な知識・技能・態度に関する情報を学習者の五感を通じて提供することである。学習者が動作を身につけるためには、技術指導する者の言葉を、学習者が練習するときの体験と結び付けなければならない<sup>6)</sup>。

デモンストレーションにおいて、知識・技術・態度に関する情報が十分伝わるように、演習前の講義の段階で、学生の生活体験における動作を想起させ、その動作と援助行為とを関連づけておく必要がある。また、デモンストレーションで「安楽」、「手関節」、「肘関節」といった言葉を聞いたとき正しく想起できるように、「看護行為の要素である安楽が保たれるように」あるいは、「安楽に配慮し援助しましょう。この場合の安楽とは、…」など言葉の意味を示したり、関節部分を示しながら「肘関節、ちゅうは肘(ひじ)とうい文字です」など説明を加えながら言葉を多用し、身近な言葉として認識させる必要がある。

表5 「安全」「安楽」「自立」が印象に残った理由

安全	患者の体に影響及ぼさないようにするためにすべきことがあることがわかる
	どのポイントから見て大切なのかをすばやく理解できるから
	なぜそうするのかちゃんと理解できる、印象に残る
	一つ一つの行為に対して患者さんの安楽さを害さないよう気を付けなければならないと思った
	その動作を何のためにしているのがよくわかる
安楽	何回も言っていた
	何を意識すべきか、誰の気持ちを考えるべきかを実施する前に確認できるから
	患者のことを思いやる言葉だから
	何度も繰り返し言われていたから
	安楽ということばは、あまり日常で使わないので「楽にできるように」といった言葉の方がわかりやすい
	具体的なイメージがしにくいから
	練習であっても、しっかり患者のことを想定して行わなければいけないというのが改めて頭に残り、意識しようと思えた
	普段使わない言葉だから
	一つ一つの行為に対して患者さんの安楽さを害さないよう気を付けなければならないと思った
	何回も発言しているから
自立	日常生活では聞く機会が少ない語句であるため
	ただ交換するだけでなく、注意すべき点を考えられるから
	なぜ、寝衣交換を2人で行うのかが分かっていなかったため
	何がその人の自立を促すことになるのかを理解していない行動できないから
	患者ができる動作であることがわかる
	何故、その行為を患者にさせていただくのかという理由がわかった
	看護師の患者の自立性を高める役割を忘れてはいけないと思いつけた
	動作の意味がわかるから
	寝衣の上着の紐を結んだり、ズボンを下げたりと患者さんに出来る事はしてもらい、というスタンスを忘れてはいけないと思った
	常に気にすべきことであることが強調されていたから
患者さんのことを考えていると感じたため	
患者さんの自立性を考慮すべき点がどこなのかわかりやすい	

表 6 擬音語・擬態語が「印象に残った理由」と「理解できない言葉」

構成要素	印象に残った理由	理解できない言葉
パタパタ	動作のイメージがしやすかった	「パタパタ上げない」 パタパタ上げない 上からパツパツパツ パタパタ～ 上からパツパツパツ パタパタ
	擬音を動きの説明に加えると、動作の様子がイメージしやすかった。	
	擬音を使うことでイメージしやすい	
	パタパタなどは人によって感じ方がちがうから少し難しいのでは…	
	擬音語で印象に残りやすく、わかりやすいため	
ふわふわ	分かりやすい、イメージがつく	ふわふわさせない
	分かりやすい擬音を使っていたから	ふわふわさせない
	想像しやすいから	ふわふわさせない
	具体的な動作がわかる。想像できる	

擬音語・擬態語については、教員の意図したように、イメージしやすいと感じた学生があった（表6）。

擬態語は普通の動詞や副詞よりも、動きについてより具体的に生き生きとしたイメージを想起させる。それによって、シーンの他の情報よりも、動きそのものに注意を向けさせ、動きを自分の心の中でも模倣したり、その動きの準備をししたりするために、それらを担う脳の部分が普通の動詞や副詞よりも強く活動するとしている<sup>7)</sup>。

しかし、アンケートの結果をみると、同じ擬音語・擬態語に対して理解しやすいと回答するものとほぼ同数で理解できない言葉ととらえる学生がある。例えば、「パタパタ」を印象に残った言葉と回答したものが5件あり、そのうち4件で「動作のイメージがしやすかった」「擬音語で印象に残りやすく、わかりやすいため」といった理由を挙げたが、1件が「人によって感じ方が違うから難しいのでは」と印象に残った理由を表現し、理解できなかった言葉にも「パタパタ」が4件挙がっていた。

「フワフワ」についても、4件が「分かりやすい、イメージがつく」「想像しやすい」「具体的な動作がわかる」として印象に残った言葉としてあげているが、理解できない言葉には3件の回答があった。

今回の調査では、擬音語や擬態語がわかりやすいと認識する学生と、分かりにくいと認識する学生がほぼ同数みられた。このことは、擬音語、擬態語を効果的に使用するには、その表現を受け止める学習者が、表現された

感覚を体験していることや、体験に基づくイメージの想起ができる経験があることが望ましい<sup>8)</sup>ことから、学習者の日常経験の差が影響した結果と考えられる。また、デモンストレーション時に説明する教員と聞き手である学生の擬音語・擬態語に対するイメージの違いも一因ではないかと考えられる。学習者に擬音語、擬態語を使用する際には、比較的イメージの一致がみられる擬音語・擬態語を用いるなどの工夫が必要である。

## 2) デモンストレーション時に使用している教員の言葉と学生が印象に残った言葉の比較

教員のデモンストレーションは、看護師役と患者役を設けて援助を実施しながら、解説者が、援助の方法、動作の根拠、技術の注目点における学生への注意喚起などをおこなう。このため、援助項目や解説を行う教員の教材観に応じて使用する言語や出現件数が異なり、デモンストレーションを見学する学生においては、学習状況・学習環境に応じて印象に残る言葉が異なることが予測される。そこで、デモンストレーションごとに教員の言葉と学生の「印象に残った言葉」の比較をおこなった。

### (1) 「注意」という言葉が学生に与える印象

教員のデモンストレーションにおける指導言語において「言葉」を含む説明には、次の2つがあった。一つ目は、「そして、来たときは『お待たせしました』とか、そういつ



た言葉が一言ほしいですね」であり、二つ目は、「入ってくる時『出ましたか?』とかね、恥ずかしいね、そんなこと言われたらね。だから、言葉がけ注意してね」である。患者に対して言葉をかけることの大切さ、かける言葉を選ぶことの大切さを説明していると思われる。

次に、こうした教員の意図はどのように伝わっているのかを当該のデモンストレーションを受けた学生のアンケートと比較した。「印象に残った言葉」で「言葉」を含む原文を検索したところ、以下の表現があった。「言葉がけに注意する」「出ましたかといわれたら恥ずかしいね、言葉がけ大切だよ」「言葉がけの注意」「言葉に注意する」「言葉がけ注意、しかし、聞くべきことは聞く」「言葉注意してね」「言葉がけに注意」「言葉かけには注意」などであった。

学生の印象としては、「言葉」と「注意」が一緒になって印象に残る傾向がある。まさに「注意」という言葉は、「ポイント」や「大事」のように学生に注意を促す言葉として印象に残りやすい。具体的にどのように「言葉」について注意したらよいのかといったことまで印象に残ったと回答したのは1件のみであった。

## (2) 「安全」「安楽」「自立」が学生に与える印象

あらゆる看護技術に共通する原則として重要視されており、教員も意図的に用いていることが推測される安全・安楽・自立という言葉についてみると「印象に残った言葉」において「安楽」は13件見られた。使用状況としては、6件が単独で「安楽」と挙げており、「効率よく、安楽に交換」「患者さんの安楽に観点を置いて2人でおこなう」など看護行為のポイントとしてとらえたものが7件であった。印象に残った言葉として挙げた理由は、「患者のことを思いやる言葉だから」と言葉のもつ意味に対して重要性を感じて印象に残ったとするものが3件、「具体的にイメージしにくい」「普段使わない言葉だから」など身近に感じられない言葉として印象付けられたとするものが3件あった(表5)。

## (3) 言葉のもつ意味を正しく理解させる

学生のアンケート結果において、印象に残った言葉の理由として「何度も繰り返していたから」といった記載が

あるが、2~3回程度の繰り返しで「何度も」繰り返している印象をもつようである。

また、同程度の出現件数で用いても「安楽」は「安全」・「自立」とは別の形で印象付けられる。例えば、教員がデモンストレーションで、「安楽」を3回、「安全」を4回、「自立」を3回とほぼ同回数使用しているが、該当学生の「印象に残った言葉」の出現回数は、「安楽」13件、「安全」5件、「自立(自律1件を含む)」は9件であった。ただし、この中で、教員が繰り返し使用していたため印象に残ったと回答したものは、「安楽」のみみられ、回答数は3件であった。つまり、言葉のもつ意味が不明確であっても、教員が「繰り返し」用いていることに重要性を感じ、記憶に残る場合がある。例えば「主関節」のように音で聞こえた言葉が間違った文字で表現されたように、言葉の意味が理解されていないと、印象に残っても動作の再現にはつながりにくい。学生の理解を深めるためには、繰り返し用いて記憶させるだけでなく、言葉のもつ意味が正しく理解されているかを確認する必要がある。

今回の調査では印象に残った言葉、動作がイメージできる言葉、理解できない言葉、について自由記述されたデータを用いてテキストマイニング分析を行った。これにより、教員が用いる指導言語において、学習者はどのような言葉を分かりやすいと感じたか、学習者が注意を向ける言葉はどのようなものであるかなど学習者の認知する言葉が明らかになった。これらの言葉を指導言語として活用していくことが、効果的なデモンストレーションを展開していくことになると思われる。

## 7. 研究の限界と課題

今回の調査は、3大学に対しておこなっており、援助項目も限られていた。今後は、調査対象者および調査対象となる援助項目を増やし、学生の生活体験を意識した指導言語について検証を深めていく必要がある。

本研究は科学研究補助金(課題26463242, 研究代表者 大津廣子)の助成を受け実施した研究の一部である。

## 謝 辞

調査に御協力いただきました教員はじめ学生の皆様に感謝申し上げます。

## 引用文献

- 1) 佐藤みつ子, 宇佐美千恵子, 青木康子, 看護教育における授業設計 第4版, 医学書院, 14頁, 2009
- 2) 佐藤美紀, 曾田陽子, 大津廣子 他, 基礎看護技術における効果的なデモンストレーションの実際, 看護実践の科学, Vol.37 No.4, 15頁, 2012
- 3) 大津廣子, 看護技術教育とデモンストレーション, 看護実践の科学, Vol.37 No.4, 11頁, 2012
- 4) 三浦利章, 行動と視覚的注意, 風見書房, 22頁, 1996
- 5) 今井むつみ, ことばの発達の謎を解く, ちくまプリマー新書, 137頁, 2013

6) 前掲3) 11頁

- 7) 今井むつみ, ことばと思考, 岩波書店, 190頁, 2010
- 8) 吉川政夫, 運動のコツを伝えるスポーツオノマトペ, バイオメカニズム学会誌, Vol.37, No.4, 217頁, 2013.

## 参考文献

- 1) 阿曾洋子他編 実践へつなぐ看護技術教育 2006 医歯薬出版株式会社
- 2) 厚生労働省医政局看護課(2009): 新人看護職員研修に関する検討会 中間まとめ, 厚生労働省.
- 3) 杉森みどり・舟嶋なをみ著 看護教育学 第5版 2012 医学書院
- 4) 藤岡完治・堀喜久子編 看護教育の方法 2002 医学書院
- 5) 堀美紀子他著 看護基礎教育における看護技術教育 2002 香川県医療短期大学紀要 第4巻 pp.165-173

**Text mining analysis of languages recognized by students  
who observed demonstration of nursing skills**

Hiroko MITSUI, Hiroko OTSU, Michiko NAKAI,  
Miki NAKAMURA, Akiko HAYASHI

Faculty of Nursing  
Suzuka University of Medical Science

略 歴

---

**三井 弘子** (博士 [経済学]) 鈴鹿医療科学大学 看護学部 看護学科 助教

学 歴 :

平成6年 日本赤十字愛知女子短期大学 卒業  
20年 東北大学 経済学研究科 博士課程前期 修了  
23年 東北大学 経済学研究科 博士課程後期 修了

職 歴 :

平成23年 半田常滑看護専門学校 専任教員  
26年 現職

主な研究分野 :

看護技術教育  
看護管理